

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンドイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.17

共済部会 第4回うるおい部会

(「環境」「文化・スポーツ」「市民生活」分野)

主な議事:市民生活を切り口として

開催日:平成22年2月17日(水)

会場:消防局本部庁舎

レポーター 藤田 卓也さん

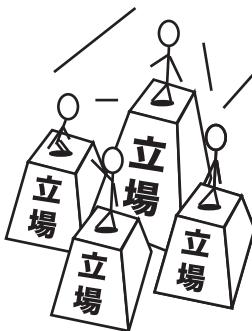


1987年広島生まれ。京都大学工学部工業化学科4回生。2005年に第5回京都学生祭典の実行委員長を務めたのち、現在は学生の課外活動支援のため、日本初の大企業と学生の共同プロジェクトである京都大学 学生コンサルティング室に所属(レポーター当時)

会議のポイント

POINT 1.

それぞれの立場に それぞれの人権がある



例えば親子なら働く親にもまだ幼いこどもにもそれぞれの人権があります。さらに時代の進展とともに高齢者や外国人などの人権も視野に入れねばなりません。バラバラに考えるのではなく、「人として根源的な尊厳を守るには」という視点でみれば全体として人権を守れるのではないかというお話をしました。

この会議を傍聴して、 藤田さんが思ったこと。

今回の会議では大きく「人権・男女共同参画社会」「青少年対策」「市民生活」の3つが議論されましたが全てに共通するのは、関わり合いの中で問題が生まれるということです。でも、人との関わり合いをなくしては暮らしていくできません。問題を生みも、解決もする市民の地域コミュニティについて改めて考えさせられました。

POINT 2.

成長の途にある青少年の 自己成長をどう助けるか



こどもたちが自分をとりまく環境全てをコントロールすることはできません。だからこそ周囲がどう自己成長の助けをしていくのかが大切です。例えば、大人として生きていくということはどういうことをこどもに教える。それは何も教育の場だけでなく、地域のつながりの中でも教えられるはずです。

私ならこうする！ 未来の京都に向けた藤田さんの提案

人権は誰もが持っている根源的な権利、ニーズです。でも立場が変われば求めるものも変わってきます。相手の立場に立って考えることは難しいことです。ですから私ならいろんな世代・性別・生い立ち・考え方をもった人たちを20人くらい集めて、お互いみんなの人権について考える場をつくります。自分の想いを伝え、相手の話に耳を傾ける中で、各自が人権に対して考えを深めていくことでしょう。

U35については、こちらをご覧下さい。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

